

今年度の検討内容について

平成24年12月4日
中国地方整備局港湾空港部

○平成23年度の検討結果

平成23年度に2回開催された検討会議での結果、下記の項目が今後の検討事項となっていたところ。

- ・石油タンク等の配置状況や護岸等の現状や耐震性について、情報収集を引き続き実施する。
- ・巨大地震に対して、危険な施設の抽出、護岸や背後地の変形量の把握、護岸の沈下等を踏まえた津波による浸水状況等、コンビナートの護岸周辺の被害状況を把握する。
- ・対応策については、必要に応じて構造検討を行い、かかる費用等も把握する。

○中央省庁等での検討結果

- ①国土交通省港湾局「コンビナート港湾における地震・津波対策検討会議」（平成24年8月とりまとめ）
 - ・地震時に、石油タンク及び高圧ガスタンクに液状化被害が発生する可能性は低いとの関係省庁の見解。
- ②内閣府防災担当「南海トラフの巨大地震に関する津波高、浸水域、被害想定」（平成24年8月29日公表）
 - ・津波による浸水想定が行われているものの、液状化による護岸等の沈下は考慮されていない。

○今年度の検討内容

- ・水島港および徳山下松港をモデル港湾として、以下の検討を行う。

検討内容：①護岸の構造解析、②津波浸水想定、③対応方針の検討、④マニュアル(案)の作成

- ・石油タンク、高圧ガスタンクの液状化被害については、本委員会での検討対象外とする。

(浸水によるタンクの転倒についても、浸水深が大きくなると予想されるため、被害が発生しない見込み。)

- ・①～③の検討結果をマニュアル化し、モデル港湾以外での検討に反映。